

# レスリング U-15 世代の競技活動継続に関する研究

河野 隆志\*  
清水 聖志人\*\*

## 抄 録

レスリング競技においては、小学生から中学生への進学を機に競技登録者が約 85%も減少する傾向にある。本研究は、U-12 世代（小学 5 年生・6 年生）においてトップレベルの競技成績を収めた競技者を対象に、U-15 世代（中学生）での競技活動の継続状況やその要因を明らかにすることで U-15 世代においても競技活動が継続されるような競技環境の整備や支援策などを検討するための基礎的知見を得ることを目的に実施した。調査方法は質問紙調査を活用し、68 名（回収率 77.3%）から回答を得た。

調査の結果、U-15 世代におけるレスリング競技の活動状況については 94.1%が継続していた。レスリング競技活動を継続した理由においては、レスリングが好きだからが最も多く（45.3%）、次いで、目標とする大会で活躍するため（32.8%）、これまで続けてきたから（17.2%）であった。レスリング競技への興味関心について 94.1%はレスリングが好きであり、レスリングが好きではないと回答した者は 5.9%であった。競技活動については、44.1%がこれまでに辞めようと思った経験があると回答した。U-12 世代トップレベルの競技者においては、76.5%が U-15 世代への進学を契機に他競技への転向を全く考えなかったことやレスリング競技活動を継続した理由について、レスリングが好きだからや目標とする大会での活躍を目標設定にする競技者が多数おり、レスリング競技に対する内在的価値を認め、競技活動を選択したと考えられた。

競技環境においては、86.3%の U-12 世代レスリングクラブ及び高等学校レスリング部などにおいて U-15 世代競技者を受入れており（河野、2016）、75.0%は部活動に加入しなくても良いと回答していることから競技活動が継続できない環境ではないことが示唆された。U-15 世代において、競技離れの改善や新たな競技者を獲得するためには、レスリング競技が楽しいと感じるコーチングやシニア世代で達成されるような目標設定などを U-12 世代の競技者に対して行うことが必要であると推察された。

キーワード：レスリング、競技活動、競技環境、U-15 世代

---

\* 東都リハビリテーション学院 〒153-0044 東京都目黒区大橋 2-4-2

\*\* 一般社団法人 Sports Design Lab 〒108-0023 東京都港区芝浦 4-20-2

# A Study on the Continuation of Competition Activities for the U-15 Wrestling Generation

Takashi Kawano\*

Seshito Shimizu\*\*

## Abstract

In wrestling competitions, with respect to the transition to the advanced level of the U-15 generation, there is a tendency for a decrease of about 85% in competition registrants. This study focuses on contestants who have achieved top-level results in the U-12 generation and identifies the conditions for continuation of competition activities in the U-15 generation as well as the factors for the same. The study was implemented with the aim of obtaining basic knowledge to examine the development and support of a competitive environment in which competition activities can continue even in the U-15 generation. The survey method used was the questionnaire survey method and responses were obtained from 68 persons (response rate of 77.3%).

According to the results of the survey, with respect to the conditions of wrestling competition activities in the U-15 generation, 94.1% continued. Reasons for continuing wrestling competition activities include, 'I like wrestling' at 45.3%, which was the most common answer, followed by 'in order to participate in a targeted tournament' at 32.8%, and 'as I have been continuing till now' at 17.2%. Regarding interest in wrestling competitions, 94.1% responded saying they like wrestling, and those who responded that they did not like wrestling constituted 5.9%. Regarding competition activities, 44.1% responded that they had thought of quitting in the past. With respect to U-12 generation top level contestants, 76.5% did not think at all of transferring to other competitions when progressing to the U-15 generation, and regarding the reason for continuing wrestling competition activities, majority of the contestants stated that it was because they like wrestling or had set the goal of participation in a targeted competition. This can be considered as recognition of the fact that the competition activities were selected based on the intrinsic value of the wrestling competition.

Regarding the competition environment, U-15 generation contestants are being accepted in 86.3% of the U-12 generation wrestling clubs and high school wrestling clubs (Kawano, 2016), with 75.0% responding that it is fine even if they do not join club activities. Hence, it is suggested that the environment is not such that competition activities cannot be continued.

With respect to the U-15 generation, in order to remedy the distancing from the competition and to win over new contestants, it is important to conduct coaching that makes wrestling enjoyable, and to set goals that can be achieved by the senior generation, for the U-12 generation contestants.

Key Words : wrestling, competition activities, competition environment, U-15 generation

---

\* Touto Rehabilitation College 2-4-2, Oohashi, Meguro-ku, Tokyo 153-0044

\*\* Sports Design Lab 2-20-4, Shibaura, Minato-ku, Tokyo 108-0023

## 1. はじめに

我が国の青年期におけるスポーツ活動においては、学校教育機関での活動が中心であることから、進学移行期毎に競技を選択する。その選択の機会に入ることができない競技も多数あり、限定された競技から専門種目を選択し、活動しているのも事実であろう。

2014年度の公益財団法人日本レスリング協会(以下、日本レスリング協会)への競技者登録数は、U-12世代において4,538名であるのに対し、U-15世代は637名と小学生から中学校への進学を契機に約85%も減少した。この傾向は、競技者登録数の集計を開始した1997年度より大きな変化はみられなく、U-15世代移行時点の競技離れは喫緊の課題である。

レスリングにおいては、オリンピック競技大会で複数の金メダル獲得が期待される競技であるため、有能なU-12世代の競技者は、シニア世代まで競技活動を継続することが、国際競技力の維持・向上に繋がると思われる。そのため、U-12世代トップレベルの競技成績を収めた競技者のU-15世代での競技活動継続の実態と要因を明らかにすることは、競技環境の整備や競技者への支援策などを検討する上において、不可欠なものであると考える。

競技活動を継続する要因について現役の円盤投げ選手を対象にした調査においては、高校・大学と競技実績が高まることで、更なる技術や競技力を高めたいという意欲と周囲からの注目によりモチベーションが高まり、競技活動を継続した(佐々木ほか, 2015)。加藤(2007)によると、中学卒業後のスキー競技については、本人の意思よりも親の理解と後押しが最も重要であると述べ、スキーを通して得るものが多いと考えている親ほど、スキー競技の継続を子供に勧める傾向が強いことを挙げている。太田・時政(1999)は、体育系女子学生の競技スポーツ継続の阻害要因としては、「他の目的志向」、「仕事との両立」、「周囲女性の影響」、「能力の限定性」などを挙げ、大学女子スポーツ選手に対する社会からの役割期待の希薄さ、社会的制限や習慣などの規範による影響が作用していることを示唆した。女子サッカー選手の競技継続要因をめぐる社会学的研究においては、選手自身の競技レベルの向上や成長、所属チームへの愛情と試合でゴールを決めることによる喜びなどに加え、チーム内の選手間の関係性についても影響していることに言及した(申, 2015)。小学生の陸上競技が盛んな北海道においては、中学校に陸上部がないため、やむなく断念する場合や身体能力の高さから他の部活動に進む(松田・新沼, 2013)

ように、進学先において競技環境が整備されていないことが競技離れにつながる要因でもあることが報告されている。競技活動継続については、競技に対する意思やモチベーションなどの個人的動機、親やチームメイト、コーチなどの他者から影響、仕事や他の目的志向、競技環境の限定性や未整備などの社会的な要因が影響しており、それらは世代や性差などで異なることが特徴として挙げられている。

レスリング競技を対象にした競技活動継続に関する調査研究報告はあまり行われておらず、現状や課題については明らかにされていない。U-15世代の競技活動継続に関する要因を明らかにすることは、有能な競技者の確保につながり、競技力向上に寄与できるものと思われる。

## 2. 目的

我々のグループは、U-12世代レスリングクラブのコーチを対象にした競技活動に関する調査において、U-15世代の競技活動継続に関する阻害要因について調査を行った。その結果、中学校体育連盟への未加入が各学校におけるレスリング部の未設置状態をつくりだし、レスリング競技を身近で活動できる環境ではないことに加え、部活動への加入を義務付けている学校も多く、複数の競技を並行して活動できる環境ではないことを報告している(河野・清水, 2014)。レスリング競技U-12世代の競技環境に関する調査(河野, 2016)においては、86.3%のU-12世代レスリングクラブ及び高等学校レスリング部などがU-15世代競技者の受入れを行っていた。この結果は、U-15世代においても競技活動が継続できる環境にあることを示唆しており、競技者の減少においては、中学校側の学外活動に対する理解や週末に同日開催される大会など、競技種目を1つに絞らざるを得ない環境にあると推察される。2016年8月に開催されたリオデジャネイロオリンピック競技大会において、レスリング競技のメダリスト6名は、U-12世代においてトップレベルの競技成績を収め、中学、高校、大学、社会人と競技活動を継続している。このように、U-12世代トップレベルの競技成績を収めた競技者については、U-15世代においても競技活動を継続する可能性が高いと推察される。

上記を踏まえ、本研究の目的は、U-12世代においてトップレベルの競技成績を収めた競技者を対象としてU-15世代での競技活動継続状況やその要因を明らかにし、U-12世代の競技者がU-15世代においても競技活動が継続されるような競技環境の整備や競技者に対

する支援策などを検討するための基礎的知見を得ることであった。

### 3. 方法

#### 3. 1. 調査対象

2013年から2015年に開催されたU-12世代育成キャンプ(小学5年生・6年生)に参加した競技者88名を対象に実施した。有効回答者は68名(77.3%)であった。

U-12世代育成キャンプ招集者は、U-12世代のトップレベルの競技力を有する競技者または、将来性が見込まれる競技者が選考条件であった。調査対象者においては、中学及び高等学校へと進学しており、高校生の場合に対しては、競技及び人生の目標以外の調査項目については、U-15世代を回顧して、回答するように依頼した。

#### 3. 2. 調査の手続き

調査については、質問紙調査法を用いた。質問紙調査票を郵送する際、調査の趣旨、プライバシーの保護、調査協力への拒否の自由などに関する説明資料を同封した。調査に協力を得られた対象者からは書面にて同意を得た。質問紙調査票などの回収については、郵送時に同封した返信用封筒に入れ、郵送してもらった。

#### 3. 3. 調査時期

2017年9月2日から9月16日

#### 3. 4. 調査内容

U-15世代におけるレスリング競技活動継続に関する実態を明らかにするため、レスリング競技活動の継続状況(6項目)、中学校の部活動(3項目)、レスリングに対する考え(5項目)、競技及び人生の目標(2項目)に関する項目から構成された質問紙調査票を作成した。

#### 3. 5. 分析方法

データの分析においては、表計算ソフト Microsoft Office Excel 2013 及び IBM 社 SPSS Statistics24 を用いた。

#### 3. 6. 倫理的配慮

本研究は、専修大学スポーツ研究所研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号2017-0901)。

## 4. 結果及び考察

### 4. 1. レスリング競技活動に関する結果

表1のレスリング競技活動継続に関する結果よりU-15世代におけるレスリング競技の活動継続状況については、94.1%(中学生92.0%、高校生100.0%)が継続していた。また、96.9%(中学生95.7%、高校生100%)がU-15世代における競技大会への出場経験があった。

所属クラブでの1週間における活動頻度においては4.5日(中学生4.0日、高校生5.0日)であり、出稽古については、約60%が実施していなかった。1回あたりの平日の練習時間については、2.4時間(中学生2.3時間、高校生2.4時間)、休日においては2.7時間(中学生2.7時間、高校生2.7時間)であり、4時間以上活動している割合が増加した。

レスリング競技活動を継続した理由においては、レスリングが好きだからが最も多く(45.3%:中学生39.1%、高校生61.1%)、次いで、目標とする大会で活躍するため(32.8%:中学生37.0%、高校生22.2%)、これまで続けてきたから(17.2%:中学生17.4%、高校生16.7%)であった。また、レスリングを継続しなかった理由については、「つらくなった」、「継続する環境がなかった」、「他の競技を行ってみたかった」などであった。

中学へ進学をした際に他競技への転向を検討したかについては、76.5%が全く考えなかった(中学生76.0%、高校生77.8%)であり、14.7%は転向を考えたが、レスリング競技を選択した。中学校での部活動については55.8%が加入しており、25.0%は部活動への加入が義務付けられていた。

レスリング競技を活動する上での問題点においては、勉強との両立が大変である(48.6%)が最も多く、次いで、活動環境が不十分(20.0%)、練習相手がいない(14.3%)であった。

レスリング競技開始年齢については、4.9歳(中学生4.8歳、高校生5.4歳)であり、競技活動については、社会人まで継続を希望する者が50.0%であった。

レスリング競技への興味関心については、94.1%はレスリングが好き(中学生96.0%、高校生88.9%)であり、レスリングが好きではないと回答した者は5.9%であった。競技活動については、44.1%がこれまでに辞めようと思った(中学生40.0%、高校生55.6%)経験があると回答した。

表 1. レスリング競技活動継続に関する結果

	中学生	高校生	合計		中学生	高校生	合計
現在、レスリングは継続しているか(中学生n=50/高校生n=18)				中学校では部活動に所属しているか(中学生n=50/高校生n=18)			
行っている	46(92.0%)	18(100.0%)	64(94.1%)	所属している	29(58.0%)	9(50.0%)	38(55.8%)
行っていない	4(8.0%)	0(0.0%)	4(5.9%)	所属していない	21(42.0%)	9(50.0%)	30(44.1%)
中学においてレスリングの大会に出場した経験はあるか(中学生n=47/高校生n=18)				中学校の部活動は必ず入部しなければならないものか(中学生n=50/高校生n=18)			
ある	45(95.7%)	18(100.0%)	63(96.9%)	入部しなければならない	12(24.0%)	5(27.8%)	17(25.0%)
ない	2(4.3%)	0(0.0%)	2(3.1%)	入部しなくてもよい	38(76.0%)	13(72.2%)	51(75.0%)
1週間における所属クラブでの活動頻度(中学生n=46/高校生n=18)				レスリングを活動する上での問題点(中学生n=26/高校生n=9)			
なし	2(4.3%)	0(0.0%)	2(3.1%)	勉強との両立が大変である	12(46.2%)	5(55.6%)	17(48.6%)
1日	4(8.7%)	0(0.0%)	4(6.3%)	練習相手がいない	5(19.2%)	0(0.0%)	5(14.3%)
2日	8(17.4%)	2(11.1%)	10(15.6%)	活動環境が不十分	4(15.4%)	3(33.3%)	7(20.0%)
3日	6(13.0%)	3(16.7%)	9(14.1%)	大会出場のための学校欠席	2(7.7%)	1(11.1%)	3(8.6%)
4日	3(6.5%)	1(5.6%)	4(6.3%)	遠征費がかさむ	1(3.8%)	0(0.0%)	1(2.9%)
5日	8(17.4%)	3(16.7%)	11(17.2%)	自由な時間が少ない	1(3.8%)	0(0.0%)	1(2.9%)
6日	9(19.6%)	5(27.8%)	14(21.9%)	就職が心配	1(3.8%)	0(0.0%)	1(2.9%)
7日	6(13.0%)	4(22.2%)	10(15.6%)	競技開始年齢(中学生n=50/高校生n=18)			
平均	4.0	5.0	4.5	2歳	2(4.0%)	0(0.0%)	2(2.9%)
1週間における出稽古の頻度(中学生n=46/高校生n=18)				3歳	12(24.0%)	3(16.7%)	15(22.1%)
なし	29(63.0%)	11(61.1%)	40(62.5%)	4歳	11(22.0%)	2(11.1%)	13(19.1%)
1日	8(17.4%)	6(33.3%)	14(21.9%)	5歳	10(20.0%)	6(33.3%)	16(23.5%)
2日	5(10.9%)	1(5.6%)	6(9.4%)	6歳	8(16.0%)	1(5.6%)	9(13.2%)
3日	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)	7歳	2(4.0%)	4(22.2%)	6(8.8%)
5日	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)	8歳	3(6.0%)	2(11.1%)	5(7.4%)
6日	2(4.4%)	0(0.0%)	2(3.1%)	9歳	2(4.0%)	0(0.0%)	2(2.9%)
1回あたりの練習時間【平日】(中学生n=46/高校生n=18)				平均	4.8	5.4	4.9
0時間	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)	レスリング競技活動継続希望(中学生n=46/高校生n=18)			
2時間	29(63.0%)	11(61.1%)	40(62.5%)	高校	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)
3時間	15(32.6%)	7(38.9%)	22(34.4%)	大学	12(26.1%)	4(22.2%)	16(25.0%)
4時間	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)	社会人	26(56.5%)	6(33.3%)	32(50.0%)
平均	2.3	2.4	2.4	未定	7(21.8%)	8(44.4%)	15(22.1%)
1回あたりの練習時間【休日】(中学生n=46/高校生n=18)				レスリングは好きか(中学生n=50/高校生n=18)			
0時間	7(15.2%)	2(11.1%)	9(14.1%)	大いに好きである	36(72.0%)	12(66.7%)	48(70.6%)
2時間	15(32.6%)	5(27.8%)	20(31.3%)	まあ好きである	12(24.0%)	4(22.2%)	16(23.5%)
3時間	12(26.1%)	7(38.9%)	19(29.7%)	あまり好きではない	2(4.0%)	2(11.1%)	4(5.9%)
4時間	5(10.9%)	3(16.7%)	8(12.5%)	レスリングを辞めようと思ったことはあるか(中学生n=50/高校生n=18)			
5時間	4(8.7%)	1(5.6%)	5(7.8%)	ある	20(40.0%)	10(55.6%)	30(44.1%)
6時間	3(6.5%)	0(0.0%)	3(4.7%)	ない	30(60.0%)	8(44.4%)	38(55.9%)
平均	2.7	2.7	2.7	レスリングを継続した理由(中学生n=46/高校生n=18)			
レスリングが好きだから	18(39.1%)	11(61.1%)	29(45.3%)	ある	20(40.0%)	9(50.0%)	29(42.6%)
目標とする大会で活躍するため	17(37.0%)	4(22.2%)	21(32.8%)	ない	30(60.0%)	9(50.0%)	39(57.4%)
これまで続けてきたから	8(17.4%)	3(16.7%)	11(17.2%)	レスリング継続のためにやりたいことを犠牲にしたことはあるか(中学生n=50/高校生n=18)			
その他	1(2.2%)	0(0.0%)	1(1.6%)	ある	20(40.0%)	9(50.0%)	29(42.6%)
				ない	30(60.0%)	9(50.0%)	39(57.4%)
中学へ進学した際に、他競技へ転向しようと考えたか(中学生n=50/高校生n=18)				犠牲にしたもの(中学生n=20/高校生n=9)			
全く考えなかった	38(76.0%)	14(77.8%)	52(76.5%)	遊び	11(55.0%)	5(55.6%)	16(55.2%)
少し考えた	5(10.0%)	3(16.7%)	8(11.8%)	家族との時間	3(15.0%)	0(0.0%)	3(10.3%)
かなり考えた	1(2.0%)	1(5.6%)	2(2.9%)	勉強	2(10.0%)	1(11.1%)	3(10.3%)
他競技へ転向した	6(12.0%)	0(0.0%)	6(8.8%)	学校行事	2(10.0%)	1(11.1%)	3(10.3%)
				習い事	2(10.0%)	2(22.2%)	4(13.8%)

レスリング競技活動継続のためにやりたいことを犠牲にした経験については、42.6%がある(中学生40.0%、高校生50.0%)と回答し、犠牲をしたことについては、友人との遊び(55.2%)が最も多かった。

#### 4. 2. 競技に対する目標

競技に対する目標について中学生(表2)では、全国中学生大会での優勝が最も多く(50.0%)、次いで、オリンピック出場・金メダル獲得(29.5%)であった。高校生(表3)では、オリンピック出場・金メダル獲得(33.3%)が最も多く、次いで、カデット国際大会出場・優勝(27.8%)とインターハイ優勝(27.8%)であった。

表2. 競技に対する目標(中学生)

n=44	
全国中学生大会での優勝	22(50.0%)
オリンピック出場・金メダル獲得	13(29.5%)
カデット国際大会出場・優勝	3(6.8%)
全国中学生大会での入賞	2(4.5%)
高校で活躍する	1(2.3%)
スポーツを通して何かを得ること	1(2.3%)
ケガからの復帰	1(2.3%)
なし	1(2.3%)

表3. 競技に対する目標(高校生)

n=18	
オリンピック出場・金メダル獲得	6(33.3%)
カデット国際大会出場・優勝	5(27.8%)
インターハイ優勝	5(27.8%)
全日本選手権大会優勝	1(5.6%)
今以上に強くなる	1(5.6%)

#### 4. 3. 人生に対する目標

人生に対する目標について中学生(表4)では、オリンピックでの金メダル獲得が最も多く、次いで、レスリングのコーチ、警察官、目標はないであった。高校生(表5)では、安定した生活が最も多く、次いでオリンピック出場、レスリングに関わることであった。

表4. 人生に対する目標(中学生)

n=44	
オリンピックでの金メダル獲得	7(15.9%)
レスリングのコーチ	6(13.6%)
警察官	6(13.6%)
目標はない	6(13.6%)
人格者	4(9.1%)
文武両道	3(6.8%)
安定した人生	2(4.5%)
救命士	2(4.5%)
レスリングを頑張る	2(4.5%)
ALSOK	1(2.3%)
スイカ農家	1(2.3%)
理学療法士	1(2.3%)
NTC勤務医	1(2.3%)
高校合格	1(2.3%)
長生きする	1(2.3%)

表5. 人生に対する目標(高校生)

n=18	
安定した生活	5(27.8%)
オリンピック出場	4(22.2%)
レスリングに関わる	3(16.7%)
人の役に立つこと	2(11.1%)
目標はない	2(11.1%)
自分の好きなことをする	1(5.6%)
優しい人になる	1(5.6%)

#### 4. 4. 考察

日本レスリング協会への競技者登録においては、U-12世代からU-15世代への進学移行を機に競技者登録が約85%減少する実態であったが、U-12世代のトップレベルの競技成績を有する競技者は、U-15世代においても94.1%が競技活動を継続しており、レスリングから離れてしまう多くの競技者は、トップレベル層以外の競技者であることが示唆された。

U-12世代トップレベルの競技者においては、76.5%がU-15世代への進学を契機に他競技への転向を全く考えなかったことや、レスリング競技活動を継続した理由について、レスリングが好きだからや目標とする大会での活躍を目標設定にする競技者が多くおり、レスリング競技に対する内在的価値を認め、競技活動を選択したと推察される。

これまでU-15世代における競技者の減少については、レスリングが中学校体育連盟へ未加入のため、中学校においてレスリング部が設置されていないことや部活動への加入が義務づけられているとの見解からU-15世代への進学移行を機にレスリング競技から離れてしまうと考えられていた。しかし、86.3%のU-12世代レスリングクラブ及び高等学校レスリング部などにおいてはU-15世代競技者を受入れており、75.0%は部活動に加入しなくても良いと回答していることから、競技活動が継続できない環境ではないことが示唆された。

レスリング競技活動を行う上においては、U-15世代競技者が大幅に減少することが影響し、同世代の練習相手に恵まれないことや、多くの競技者がレスリングクラブにおいて活動しているため、大会への出場が公欠として認められないなどの課題が挙げられた。競技者にとって、同等レベル以上のライバルや環境に身を置くことで競技力を維持・向上させることが可能である。競技活動が盛んでない地域においては、そのような環境へ遠征することで競技環境を担保することは可能であるが、経済的負担が増大する。また、全国大会の開催においては、茨城県と東京都にて固定されているため、遠方の地域においては、大会に出場する

毎に、多額の経済的負担が強いられる。

競技に対する目標においては、オリンピック競技大会出場や金メダル獲得、カデット世代の国際大会への出場や優勝など、国際大会での活躍を目標に競技活動を行っている競技者が多数いた。競技活動の継続理由においても目標とする大会での活躍を挙げる競技者が約30%おり、競技成績に対する明確な目標設定のもと、レスリング競技を選択し、活動を継続していることが伺えた。特に、国際大会での活躍を目標にする競技者においては、世界選手権出場や金メダルの獲得を挙げる者は皆無であり、全ての競技者がオリンピック競技大会を目標に掲げていたことは興味深く、その要因の特定については今後の課題として検討していくことが必要であろう。

中学生及び高校生においては、約10%が人生に対する目標がないと回答し、また、安定した人生や自分の好きなことをするなど、漠然とした目標設定が多い。アスリートキャリアやデュアルキャリアなどが指摘されている現在、コーチ、保護者、学校関係者などのアスリート・アントラージュは、競技だけでなくキャリア形成についても競技者に理解させ、サポートすることが重要であろう。レスリングと勉強の両立の難しさを課題に挙げる競技者も多くおり、特に、トップレベルを目指す競技者においては、幼少期から競技活動を中心とした生活スタイルであることが推察されるため、アスリート・アントラージュに対する適切な知識の提供も必要と考えられる。本調査対象者は、4.9歳からレスリングを開始し、以後約20年間、競技と勉強、仕事、プライベートなどを両立することが求められる。そのためには、競技と人生、それぞれに目標を持つことが不可欠であり、それらの実現に向けた取り組みこそが、競技活動を継続するうえにおいて重要なことであると考えられる。

## 5. まとめ

本研究では、U-12世代においてトップレベルの競技成績を収めた競技者を対象としてU-15世代での競技活動継続状況やその要因を明らかにし、U-12世代の競技者がU-15世代においても競技活動が継続されるような競技環境の整備や競技者に対する支援策などを検討するための基礎的知見を得ることを目的に実施した。

その結果、U-12世代トップレベルの競技者のU-15世代における競技活動継続状況は94.1%であり、殆どの競技者が競技活動を継続している実態を示すことができた。競技活動を継続した要因については、レスリ

ングが好きであることや目標とする大会での活躍などレスリング競技に対する内在的価値を認め、競技を選択し、継続したと考えられた。

U-15世代の競技環境においては、86.3%のU-12世代レスリングクラブや高等学校レスリング部などにおいてU-15世代の競技者を受入れており、また、部活動の加入を義務付けている学校は25.0%であるため、競技者が希望すれば競技活動を継続できる環境にある。

U-15世代において、競技離れに対する改善や新たな競技者を獲得するためには、レスリング競技が楽しいと感じるコーチングやシニア世代で達成されるような目標設定など、レスリング競技を選択してもらえるような魅力をU-12世代の競技者に対して行うことが肝要となる。

今後の課題としては、進学による移行期においてレスリング競技から離れてしまう競技レベル層の特定やその要因について明らかにすることが必要であると考えられた。

### 【参考文献】

- 加藤清孝 (2007) スキー競技継続を進める親の行動意図決定過程. スポーツ産業学研究, 17 (1) : 57-63.
- 河野隆志・清水聖志人 (2014) 地域におけるレスリング U-12 世代の競技環境に関する研究. 日本体育学会大会予稿集, 65 : 177.
- 河野隆志 (2016) レスリング U-12 世代における競技環境の実態に関する研究. 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, 87-95.
- 松田賢一・新沼英明 (2013) トップアスリートの陸上競技継続に関する研究 1 : インタビュー調査を通して. 学校教育学会誌, 18 : 1-13.
- 太田雅夫・時政寛子 (1999) 大学女子スポーツ選手の競技継続に関する調査研究. 天理大学学报, 191 : 7-13.
- 佐々木大志・櫻田淳也、畑山茂雄 (2015) 陸上競技選手における競技継続に関する研究. 東京女子体育大学女子体育研究所所報 : 15-21.
- 申恩真 (2015) 日本の女子サッカー選手の競技継続要因をめぐる社会学的研究 : 当事者のライフストーリー分析から. 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書 : 93-100.

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。